

クオッカの プロフィール

クオッカとのセルフィーは、日本のTV番組でも紹介されました。観光客と撮った写真のクオッカの表情が笑って見えたのでセルフィーが好きな動物と称されるようになりました。そんな、クオッカの特徴や生息地などを紹介します。

参考資料元：Government of Western Australia, Department of Parks and Wildlife



名前 クオッカ (Quokka)

体長

オス

体長：430～540mm

尻尾：250～310mm

体重：2.7～4.2kg

メス

体長：390～500mm

尻尾：235～285mm

体重：1.6～3.5kg

特徴

クオッカの体毛は、灰色がかった茶色と赤茶色で、体の下側はその色が多少明るくなった色合いになっています。その毛は長く、ゴフゴフして太いです。真ん丸の目をしており、傘を広げたような突き出た鼻が特徴です。短い尻尾は、先端に行くほど細くなっています。体には特に、模様はありません。

他の呼び名

Quokka以外にも、Short-tailed Wallaby や Short-tailed Pademelon といった呼び名があります。また、先住民族の間では、Ban-gup や Bungeup、Quak-a、Bangop とも呼ばれていました。

分布

ヨーロッパ人たちが開拓を進めていた時代、クオッカは化石の存在から、本土の西オーストラリア州南西部や Rottnest Island (ロットネスト島)、Bald Island (ボールド島) に生息していたことがわかりました。ただ、現在のクオッカの分布地域は、ロットネスト島が主となります。また、変わらず本土の西オーストラリア州南西部の約 25 箇所の沼地エリアにも生息していますが、その個体数は減退していています。

生息地

ロットネスト島での生息エリアは、湖やその周辺となっています。住処として、密集していない手付かずの自然や Acacia Rostellifera (アカシア属の木) の低木林、塩性湿帯や湖周辺を選ぶ傾向があります。また本土では、植物のある沼地や水場の砂地、Tea-Tree (ティーツリー種の木) の雑木林や斜面をすみかとしています。

習性

温度調節機能を持ち、外気の気温が 44 度になるまで調節できるようになっています。また、温かくなってくる 11 月頃の夜、新鮮な水を求め、水域に集まってきます。中には、そのために 2km 以上も移動してくるものもあります。また、グループで社会的な組織を作る習性があります。成体のオスのクオッカは、年齢に基づいて上下の階層を形成します。さらに、水辺から離れたエリアをテリトリーにしているクオッカは、25～150 匹の成体のクオッカでグループを形成します。これらの習性は主に島に生息するクオッカとなります。

食餌

本土のクオッカを研究したところ、食餌は、Peppermint (ペパーミント種の草) や Agonis Flexuosa (アゴニス属の木)、Thomasia (トマシア属の木) の植物などといった草木を優先して食べることが分かっています。

繁殖

本土のクオッカは、1年を通して繁殖することができます。ロットネスト島に生息するクオッカの繁殖期間は短く、メスのクオッカの発情期は 1 月前後となっています。子どもは、8 月頃まで母親のおなかにある袋で過ごし、10 月までは乳を飲んで育ちます。

減少原因

クオッカの個体数の減少時期は 1920 年頃とされ、キツネが西オーストラリア州南西部に持ち込まれた時と一致します。そのキツネによって捕食される危険に晒されることになり、また開拓が進んで生息域となる沼が減ったこともクオッカの数が減少した原因となっています。

国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストによる絶滅危機レベル (P21 参照)

Vulnerable / 絶滅危惧 II 類

興味深い事実

オランダ人の探検家、ウィリアム・デ・ヴァラミン (Willem de Vlamingh) は、降り立った島にいたたくさんのネズミに似た動物を見つけました。そして、その島を Rat <ネズミ>の nest <巣>が訛って、Rottnest (ロットネスト) と呼び、それがこの島の名称となりました。また 1920 年代、クオッカは松の植林地の害獣と考えられ、パース近郊の農場経営者がクオッカ狩をしたり、毒殺したりといった過去があります。